

あきたを創り、あきたを守る

—— 女性・若手従業員のサポート体制 —— VOL.3

私たちの生活の基盤を支える「建設業」を紹介するシリーズ。最終回となる第3回目は、深刻な人材不足を解消するための取り組みがテーマ。女性従業員と若手従業員のサポート体制に注目し、県内の2社から現場の声を聞きました。



八重樫建設 工務部 課長補佐
あきた建設女性ネットワーク クローバー 共同代表 **安保咲子 さん**

楽しい職場環境アピール

— 建設業で働くきっかけは

水道屋だった父の影響で、工事現場は幼少期から身近な場所でした。大館工業高校の建築科で測量を学び、高卒で働き始めました。求人も少なく「女の子は少ない」と断られたこともありましたが、当時の八重樫學社長(現会長)に採用していただきました。

— 担当している業務内容は

土木工事の現場監督です。計画を立て、進行状況やコストなどを管理しています。現在は次の工期の準備を進めながら、若手のサポートをしています。

— 20年働いてきて、環境は変わった？

女性をもっと取り込もうという動きが広ま

り、働きやすくなってきています。具体的な例としては、工事現場のトイレが改善されました。クローバーに所属する女性たちが県に要望を出したことで「快適トイレ」が設置義務化され、清潔で丈夫な、男女別のトイレが実現しました。

— クローバーの活動を教えてください

県内の建設業で働く女性たちによる団体で、2018年に設立しました。男女共に働きやすい環境づくりや、人材確保のための広報活動をしています。

— クローバーの活動を通して変わったことは？

男性が多い環境で長年目立たないよう働いてきましたが、現場の担い手不足は深刻。私たちが楽しく働いていることをもっ

と周知しなければと思うようになりました。若い女性の入職者が増えてきていると県庁の担当者から聞いたので、もっと頑張りたいです。

— 女性にアピールしたいポイントは

この業界は服装や髪型、ネイルなどの自由度が高い会社が多く、おしゃれを楽しみながら働いている人がたくさんいます。また、基本的に工期に合わせて働くので、区切りのいいところで産休・育休を取りやすく、復帰もしやすいです。

あきた建設女性
ネットワーク クローバーの
Instagramはこちら



広がっていく女性活躍の場

八重樫建設(鹿角市) **佐藤隆志** 代表取締役社長

サポート体制の充実図る

現場担当者の負担や時間外労働を減らすためのサポートを担っています。このような現場に出ない業務も、今後はもっと広がっていくでしょう。

— 資格取得のサポートもあるのですね

建設事務には、会社が費用を援助して民間資格「建設ディレクター」の取得を目指してしてもらっています。1名はすでに取得済みです。資格取得を通して建設業を身近に感じてもらえたらと思っています。興味を持ってもらえる入り口を用意して、その中から重機を

動かしたい人材も現れたらうれしいですね。

— 育児中の従業員の働き方についてどんな配慮をしていますか

今年10月、国の「育児・介護休業法」の改正により「育児期の柔軟な働き方を実現するための措置」が施行されました。わが社ではこの措置の一つとして、3歳以上の未就学児を育てている従業員に養育のための休暇を年に10日間付与。加えて、そのうちの5日間を有給休暇として利用できるよう独自に設定しました。早速利用している女性従業員もいますよ。



女性従業員の働きを語る佐藤社長

— 女性従業員はどんな現場で活躍していますか

現在従業員51名のうち7名の女性が在籍しており、現場監督や建設事務などとして活躍しています。建設事務2名の業務は、現場担当者の書類作成の代行です。多忙な

花岡土建(大館市)

鈴木一敬 代表取締役



風通しいい環境づくりを

— 若手人材定着のために取り入れていることは

建設業は昔の「昼も夜もなく、休日もない」頃のイメージがまだ根強いですが、業界全体で働き方改革が進んでいます。わが社では休日の確保や時間外手当の支給はもちろんのこと、入社1年目から有給休暇を年20日間付与するなど福利厚生の実施を図っています。会社も時代に合わせて都度アップデートしていかなければ、人材は定着しません。

— 今後の課題は

現在、10代から70代の61名が在籍しています。業界全体でその傾向が強いのですが、一時期公共工事が減少した影響で30～40代の

中間層が少ないため、風通しのいい環境づくりに苦心しています。われわれももっと若手の考えを聞きたい。引き続きコミュニケーションのとりやすい体制を整えてまいります。



若手が働きやすい環境づくりを語る鈴木社長

若手社員の声

- 1 仕事内容とやりがい
- 2 今後の目標
- 3 若者をもっと取り込むにはどうすれば良いと思う？

◆ 建築技術者
菅原実夢さん(24)



- 1 現場監督として、先輩にアドバイスをもらいながら、見積もりや図面作成などの事務作業と、工事が計画・図面通りに進んでいるかといった現場全体の管理をしている。小さな建屋だが、今年は初めて一人で現場監督をやリ遂げた。新しいことを任せられると、自分の成長を実感できる。お客さまから直接感謝の言葉を伝えてもらうこともあり、やりがいを感じる。
- 2 現場では、社内だけでなく下請けや職人の皆さん、お客さまともやりとりがある。頼りないと思われたいよう、もっと自信をつけて、堂々と現場に立てるようになりたい。
- 3 DX(デジタルトランスフォーメーション)の活用が若手一人一人の育成にもつながるのではないかと思います。

◆ 土木技能者
木村冬月さん(23)



- 1 主に道路や駐車場などの舗装工事を担当。約10人の体勢で動いており、現場はその都度変わる。最近作業をした大館市泉町の現場は交通量が多く苦労したが、自分もよく通る道。自分たちが造った道路を見ると誇らしい気持ちになる。積雪のある期間は除雪作業をしている。人通りが増える前に終わられるよう、夜間に作業をしている。
- 2 どの機械に乗ってもうまく扱えるように、操作の腕を上げたい。
- 3 私たちが手がけた現場を見て「道路が綺麗になったな」と思ってもらえることができれば、興味を持ってもらうきっかけになるのでは。また、企業説明会のような場にもっと自分のような現場作業員が参加して、生の声を届けられたら良いと思う。

◆ 土木技術者
高橋和希さん(19)



- 1 現場監督の見習いとして、現在は二ツ井～今泉区間の高速道路工事の現場スタッフに入っている。現場作業は想像以上に過酷だが、それでも頑張ってみたら、先輩方や作業員の方たちが声をかけてくれるようになったり、楽しみを見つける余裕が出てきた。
- 2 少しずつできることは増えてきたものの、まだわからないことが多いので、もっと知識をつけたい。高校時代に2級土木施工管理技士の第一次検定に合格しており、実務経験の要件を満たしたら、第二次検定に挑みたい。
- 3 建設業の仕事は現場作業ばかりが目につきやすいが、他の業務もいろいろある。具体的な業務の流れを事前に提示できれば、もっと興味を持ってもらえたり、離職者も減るのではないかな。